

財務報告実務検定

Financial Reporting Practical Skill Examination

連結業務から開示業務までの流れを
一気通貫で学ぶ!

各分野の正答率、全問題の正誤確認で
自分の弱い分野が分かる!

連結実務 演習編

連結財務諸表の作成、
開示業務から
XBRL業務までを
体系的に学習

XBRL

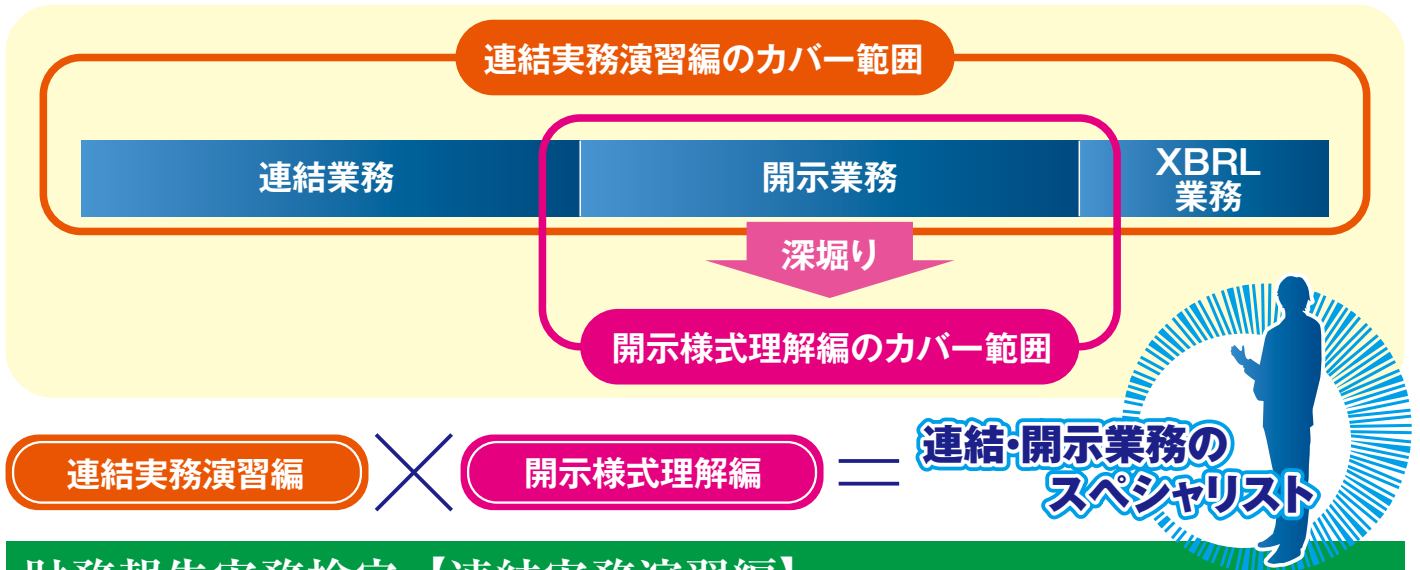
開示様式 理解編

各種開示書類の目的、
作成要領、データの関連性から、
決算・財務報告プロセスに必要な
内部統制までを体系的に理解

*旧「財務報告実務検定試験」になります。試験範囲や内容に一切変更はありません。

連結実務演習編と開示様式理解編がカバーする範囲

財務報告実務検定には、「連結実務演習編」と「開示様式理解編」があります。両編は独立した検定試験であり、それぞれについて合否が判定されます。両編のカバーする範囲は以下のとおりです。開示様式理解編は、連結実務演習編の「開示」の部分より深掘りした検定試験ということになります。



財務報告実務検定【連結実務演習編】

連結実務演習編とは？

出題範囲

財務報告実務検定【連結実務演習編】には「標準レベル試験」と「上級レベル試験」があります。標準レベル試験は、連結財務諸表を初めて学習される方を対象に、連結財務諸表の作成の手順、各社（海外子会社を含む）からの会計データの収集、連結財務諸表の作成、開示上のルールといった、連結財務諸表（開示も含む）の「基礎～標準レベルの作成能力」と問う試験です。上級レベル試験では、連結財務諸表を作成する際に必要となる基礎資料の作成（連結子会社・持分法対象会社の情報収集、海外子会社の財務諸表の換算、取引や債権債務の照合表の作成等）から連結精算表を経て連結財務諸表が作成されるまでのデータの流れや手順、開示のルール、さらにはXBRLの知識といった「連結財務諸表を作成し開示を成し遂げる力」が問われます。

試験科目	項目	標準レベル試験の主な出題内容	出題割合	上級レベル試験の主な出題内容 (標準レベル試験に加えて下記の内容)	出題割合
連結決算	連結貸借対照表、 連結損益計算書、 連結株主資本等変動計算書	投資と資本の相殺消去、開始仕訳、子会社の利益剰余金、のれん、非支配株主持分、剰余金の配当、持分法の会計処理	20%	退職給付引当金の組替	40% 45%
		内部取引の消去、資金取引、商品売買取引、貸倒引当金の調整、未実現損益の調整、アップ・ストリーム、持分法（未実現損益の調整）	10%		
		子会社の資産・負債の時価評価、子会社株式の追加取得、子会社株式の一部売却、子会社の増資（持分比率が変化しない増資、持分比率が変化する増資を含む）、子会社のその他有価証券評価差額金（追加取得、一部売却を含む）、持分法（追加取得、一部売却）未実現損益の調整（税効果会計あり）、貸倒引当金の調整（税効果会計あり）、持分法における税効果会計	20%		
	在外子会社の財務諸表の換算、在外子会社の資本連結、のれんに係る為替換算調整勘定	10%			
連結包括利益計算書	当期発生、組替調整	—	税効果会計、持分法適用会社の取扱い	40% 45%	
連結キャッシュ・フロー計算書	—	—	間接法かつ簡便法による連結キャッシュ・フロー計算書の作成（在外子会社を含む）		
連結開示	組替表	開示の基礎知識（有価証券報告書、四半期報告書、決算短信）、開示業務フロー（連結精算表から開示科目への組替、重要性基準など）	30%	基本財務諸表、ハイライト情報、業績等に関する説明及び関連書類の作成（書類間の照合を含む）	10% 20%
	開示上の計算	1株当たり金額及び各種財務比率の算定			
	有価証券報告書の作成	—	—		
XBRL	XBRLのポイント	—	—	リンクベース、インラインXBRL	10% 20%
	タクソノミを構成する仕組み	—	—	勘定科目名称（名称リンク）の上書き、「該当なし」要素	
	EDINET固有の運用ルール	—	—	—	

財務報告実務検定【開示様式理解編】

財務報告実務検定【開示様式理解編】とは？

財務報告実務検定【開示様式理解編】は、各種開示書類の目的、作成要領、データの関連性を理解し、さらに、決算・財務報告プロセスに必要な内部統制までを広く範囲かつ体系的に理解することを問う試験です。すなわち、開示様式理解編では、財務報告そのものに加え、決算整理後残高試算表から有価証券報告書等の財務報告までの開示に関する一連の流れが出題範囲となりますので、開示様式理解編に合格するための学習をすれば、既に企業の開示関連部門で実務経験のある方のスキルアップや知識の体系的整理に役立つのはもちろん、人事異動等で開示関連部門に配属されたばかりの方が開示実務のベースとなる知識を身につける上でも有効なツールとなるはずですよ。

出題範囲

試験科目	出題割合	項目	主な出題内容
財務報告概論	10~20%	ディスクロージャーの目的・分類・効果	総論、ディスクロージャーの分類、財務報告の範囲と開示プロセス、会計制度改革とディスクロージャー制度
		ディスクロージャーの体制と年間スケジュール	総論、年間スケジュール、本決算スケジュール
		財務報告基礎データの収集	決算・財務報告業務開始前に確認しておくべきデータ、データ収集のツールとしての連結パッケージ、有価証券報告書の各開示項目に必要なデータの概要、財務報告基礎データの収集体制の整備、他社事例の収集等
		財務報告に係る内部統制	総論、財務報告に係る内部統制の評価・報告の流れ、決算・財務報告プロセス等に係る内部統制構築上の留意点
		金融商品取引法	総論、有価証券届出書、有価証券報告書、四半期報告書、内部統制報告書、その他の開示書類、電子開示実務
		適時開示	総論、決算短信、四半期決算短信、決定事実・発生事実、不適正な適時開示に対する措置
財務報告各論 (金融商品取引法)	50~60%	会社法	各事業年度において作成が必要となる財務情報等、会社の計算等に関する会社役員等の責任
		その他	その他の提出書類等、IRと任意開示
		有価証券報告書	開示府令・財規・連結財規における規定内容、各数値の計算方法・整合性、表示に関する計算問題
財務報告各論 (適時開示)	10~20%	四半期報告書	開示府令・四半期財規・四半期連結財規における規定内容、有価証券報告書との相違、各数値の計算方法・整合性、表示に関する計算問題
		内部統制報告書	内部統制府令の規定内容、財務報告に係る内部統制基準・実施基準の規定内容
		決算短信	取引所規則における規定内容、有価証券報告書との相違、各数値の計算方法・整合性、表示に関する計算問題
財務報告各論 (会社法)	10~20%	四半期決算短信	取引所規則における規定内容、四半期報告書との相違、各数値の計算方法・整合性、表示に関する計算問題
		その他の適時開示等	決定事実・発生事実・コーポレート・ガバナンス報告書に関する取引所規則における規定内容
		招集通知(狭義)	会社法、会社法施行規則の規定内容
		事業報告	会社法、会社法施行規則・会社計算規則の規定内容、有価証券報告書との相違
財務報告各論 (会社法)	10~20%	連結計算書類	会社法、会社計算規則の規定内容、有価証券報告書との相違、各数値の計算方法・整合性、表示に関する計算問題
		計算書類等	会社法、会社計算規則の規定内容、有価証券報告書との相違、各数値の計算方法・整合性、表示に関する計算問題

受験要項(連結実務演習編・開示様式理解編共通)

- 試験方式：CBT(Computer Based Testing)方式(コンピュータ画面での試験)となります。
- 受験会場、試験実施日時及び申込期間：受験する方の都合に応じて、受験する会場(全国の主要都市をほぼカバーしています)や日時を自由に選択できます(なお、受験申込みは「受験の3日前」まで可能です)。受験会場、受験可能日時は下記のURLにてご確認ください。また、「社内受験制度」も実施しています(裏面参照)。
<https://cbt-s.com/testcenter>
 ※財務報告実務検定公式HP「受験のお申し込み」からアクセスできます。
- 試験申込先：下記のURLよりインターネットにてお申し込みください。
<https://cbt-s.com/examinee/examination/zaimuhoukoku.html>
 ※財務報告実務検定公式HP「受験のお申し込み」からアクセスできます。
- 受験料：¥12,000(税抜)／財務報告実務検定会員は¥10,000(税抜)

- 受験資格：なし。ただし、簿記3級以上の知識を有していることが望ましい。
- 試験時間：連結実務演習編は標準レベル試験、上級レベル試験ともに90分、開示様式理解編は120分
- 問題数：連結実務演習編…【標準レベル試験】は連結決算7問、連結開示3問、【上級レベル試験】は連結決算3~5問、連結開示3~5問、XBRL1~2問(それぞれ選択式問題及び計算問題から構成されます。)開示様式理解編…選択式問題100問及び総合問題(計算問題を含む小問3問から構成されます。)3問
- 試験結果：試験結果は試験直後にその場で判明し、スコアレポート(※)を持ち帰ることができます。また、後日、メールにて試験結果を再度お知らせします。
 ※各分野ごとの正答率、各問題ごとの正誤もお知らせします。
 受験要項は適宜見直しされる可能性があります。最新版については、財務報告実務検定公式HPにてご確認ください。

財務報告実務検定試験の学習方法

連結実務演習編、開示様式理解編ともに、試験対策の基本となるのは公式テキストです。連結実務演習編については、標準レベル試験用公式テキストとして中央経済社から「連結決算・開示の実務」、上級レベル試験用公式テキストとして「連結決算・開示実務演習テキスト」(電子書籍及びオンデマンド製本)が出版されています。両書とも解説と問題集が一体になった構成となっており、これ一冊で連結実務演習編の試験範囲について、知識のインプットとアウトプットをすることができます。

開示様式理解編については、公式テキストで知識をインプットする一方、公式問題集および計算問題対策問題集でアウトプットしていただくと、より高い学習効果が期待できます。また、効率的に学習のポイントを押さえたいという方には、開示様式理解編の学習内容の要点と確認問題で構成される重要ポイント&精選問題がお勧めです。なお、開示様式理解編の全てのテキストは、法令等の改正にスピーディに対応するために、電子書籍及びオンデマンド製本により出版されています。

財務報告実務を短期間で効率的に学びたい方、ハイスコアを目指す方には、資格の学校TACの財務報告実務検定対策講座の受講をお勧めしています。

連結実務演習編

標準レベル試験用
公式テキスト

上級レベル試験用
公式テキスト

インプット+アウトプット
公式テキスト



資格の学校TACにて
財務報告実務検定
講座開講中!



開示様式
理解編



アウトプット
公式問題集
計算問題対策問題集

インプット
公式テキスト



インプット+アウトプット
重要ポイント&精選問題

財務報告実務検定試験に合格したら？

財務報告実務検定会員への登録

財務報告実務検定に合格(連結実務演習編、開示様式理解編の種別、試験のレベルは問いません)すると、「財務報告実務検定会員」になることができます(任意)。会員の特典は下記の通りです。コストは月額換算でわずか1,000円(税抜)。ランチ1回分のコストで、最新の財務報告実務知識等入手できます。

特典1 財務報告実務検定会員限定・継続研修の受講

財務報告実務の現場では、毎年のように実施される開示に関する内閣府令をはじめとする法令改正や、頻繁に行われる会計基準の見直しに対応していかなければなりません。財務報告実務検定会員だけに提供される本継続研修では、独自取材によるニュース記事やウェブセミナーの配信のほか、多忙な財務報告実務担当者ができるだけ短時間で効率的に知識のアップデートを図ることができるよう、例えばその月にあった財務報告に必要な開示に関する内閣府令や証券取引所規則、会計基準等の改正を毎月漏れなくリストアップした上でチェックテスト化するなど、工夫が満載です。



特典2 資格の付与

合格した試験の種類に応じ右記の資格が付与されるとともに、資格証に相当する会員証が発行されます。会員は右記の資格を名乗る(名刺や履歴書に記載することを含みます)ことができます。

合格した試験	会員登録後に付与される資格ロゴ
財務報告実務検定 【連結実務演習編】	標準レベル試験 連結決算実務士
	上級レベル試験 上級連結決算実務士
財務報告実務検定 【開示様式理解編】	Basic ディスクロージャー・アドミニストレーター
	Standard ディスクロージャー・プロフェッショナル
	Advanced 上級ディスクロージャー・プロフェッショナル

特典3 会員限定・最新求人情報のご提供

財務報告実務検定事務局に集まる最新の求人情報(上場企業、上場準備企業のほか、コンサルティング会社、監査法人など)を、定期的にご提供しております(基本的にeメールでお知らせします)。最新求人情報の多くは、会員限定のご提供となっております。

特典4 解説付き!テキストの改訂情報のご提供(開示様式理解編のみ)

テキスト類が年度途中で改訂された場合、改訂ページ(公式テキストについては解説+例題付き)のPDFを無料で閲覧できます(会員ページに掲載)。

特典5 受験料、テキスト類の割引

財務報告実務検定試験の受験料が12,000→10,000円(いずれも税抜)に、テキスト類が20%程度割引になります。
※会員制度の詳細は財務報告実務検定公式HPでご確認ください。
<https://www.zaimuhokoku.jp/member>
【会費】年額12,000円(税抜き)

転職支援～上場企業の財務報告を担うプロフェッショナルへ～

下記の人材エージェントとのタイアップにより、合格者の転職支援を行っています。

※当協会としては、有料職業紹介は行っていません。

- MS-Japan <http://www.jmsc.co.jp/>
- バリューアップパートナー <http://vu-p.com/>
- JACリクルートメント <http://www.jac-recruitment.jp/>
- マイナビAGENT <http://mycom-agent.jp/>
- TACプロフェッションバンク <http://tacnavi.com/>
- レックスアドバイザーズ <https://www.career-adv.jp/>
- エリートネットワーク <http://www.elite-network.co.jp/>
- プロフェッショナルバンク <http://www.pro-bank.co.jp/>
- クロスインフィニティ・マネジメント <http://www.crossinfinity.com/>
- Keep in touch(キープ・イン・タッチ) <http://kitkit.jp/>
- ジャスネット・キャリア <https://career.jusnet.co.jp/>

「法人向け」教材割引制度、社内受験制度&団体受験制度

◆法人向け教材割引制度

一つの法人から複数人(2名様以上)が財務報告実務検定試験にチャレンジされるケースを想定し、右表のとおり各種教材の割引販売を実施しています。ご購入をご希望の法人様は、財務報告実務検定公式HPにあるバナー「法人向け教材割引制度」をクリックし、所定のお申込みフォームよりお申込みください。

◆社内受験制度&団体受験制度

○社内受験制度

「財務報告実務検定を受験したいが、試験会場に行く時間がない」「試験会場がオフィスから遠い」「複数の社員を同じ条件・環境で受験させたい」——こうしたニーズにお応えするのが、「社内受験制度」です。社内受験制度をご利用いただければ、試験会場に向くことなく、会社の会議室等で受験いただくことができます。貴社を試験会場としてご使用いただく分、受験料が割引になります。詳細は財務報告実務検定公式HPにあるバナー「社内受験制度&団体受験制度」をクリックし、ご覧ください。

<社内受験制度概要>

【受験料】	1名様あたり10,000円(定価 12,000円) ※金額は消費税抜き
【最少催行人数】	1開催試験あたり5名様以上
【ご用意いただくもの】	試験会場となる会議室等

○団体受験制度

同一法人に所属する方の複数が同時期に財務報告実務検定を受験される場合、受験料が割引(1名様あたり12,000円⇒10,000円(金額はいずれも消費税抜き))になる制度です。5名様以上(※)の受験が必要となります。

※お申込み例 お申込み例1: 財務報告実務検定・開示様式理解編で5名申込み

お申込み例2: 財務報告実務検定・開示様式理解編で3名、財務報告実務検定・連結実務演習編で2名申込み

財務報告実務検定試験に関するお問い合わせ先

財務報告実務検定事務局(日本IPO実務検定協会内) 担当者:事務局長 原田 住所:〒171-0033 東京都豊島区高田3-28-8
Tel:03-5992-7688 Fax:03-3971-3667 URL:<https://www.zaimuhokoku.jp/> E-mail:info@zaimuhokoku.jp